学校経営方針

１　学校経営の基本姿勢

教育基本法の前文では、「個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する。」ことがうたわれている。

また、熊本県教育大綱の基本方針では、「熊本地震を乗り越え、子供たちが自分の夢の実現に向かって挑戦を続けるためには、知・徳・体をバランスよく成長させ、“生きる力”を育成することが必要である。」ことと、それを支える教職員一人一人の資質・能力を高めることの大切さに言及されている。

芦北教育事務所では、県教育委員会の基本方針の下、**「『認め･つなぐ･明るい』教育の実現～芦北だからできる教育の実践を通して、芦北から新しい教育の風を～」**をテーマに、「郷土に誇りを持ち、夢の実現を目指す熊本の人づくり」の理念に基づき、様々な取組が推進されている。

芦北町では、まちづくりの目標に**「すべては２１世紀を担う子どもたちのために」**を掲げ、**「温故創新」**（古きを学び知り、生きる力を培い、新しさを創る）を教育理念とする公教育の方向が示されている。

本校では、これらの理念や方針、目標の具現化のために、生徒の実態並びに保護者・地域の願いを踏まえつつ、生徒一人一人の心の居場所づくりと、活躍の場づくりに全職員一丸となって取り組み、生徒、保護者、地域住民、教職員にとって**「田浦中で学んで良かった」、「田浦中で学ばせて良かった」、「田浦中を応援して良かった」、「田浦中に勤務できてよかった」**と言える魅力あふれる学校づくりを目指す。

２　学校経営の根幹

（1）経営の方針

人間尊重の精神を基盤に、校訓「自主・誠実・躍進」の具現化をめざした教育実践に努める。
主体的・対話的で深い学びの実現を通して、知･徳･体の調和のとれた心豊かでたくましい「生きる力」を身につけ、自立した生徒の育成を図る。

（２）校訓

自主　・　誠実　・　躍進



（３）学校教育目標

『潤いと輝きにあふれる学校』
『潤い』とは、一人一人に居場所があり、笑顔と信頼の絆でつながる学校
『輝き』とは、一人一人に活躍の場があり、自己肯定感・自己有用感が高まる学校

（４）学校教育目標具現化に向けた基本的な考え方

①生徒に育成したい力
○『潤い』の視点⇒他者認識力（尊敬と感謝、協調・協力）
○『輝き』の視点⇒自己実現力（自律から自立へ）⇒悪戦苦闘能力の育成
②教職員の姿勢
○教職員が変われば⇒生徒、保護者、地域が変わる⇒生徒の未来が変わる
・教職員としての矜持と謙虚さを保ち、理想の大人像を体現する
・人権感覚を研ぎ澄まし、感性豊かに生徒に寄り添う
・生徒一人一人の個性と能力を最大限に引き出し、夢の実現を支える
・率先垂範し、人のために進んで汗をかくことの大切さに気付かせる
・生徒の自立を第一義に、最後まで粘り強く関わる
・芦北町の職員としての自覚をもち、地域社会に貢献する
○教職員がつながり合い、組織力で皆がわくわくする魅力ある学校を創る
③教職員と生徒会の協働
○教職員と生徒会が連携・連動し、両輪となって学校課題の解決に取り組むことで、生徒の自己解決能力と社会参画意識を育む

３　本年度の重点努力目標

（１）「豊かな心」の育成

○人権教育の充実：人間尊重の精神を学校教育の基盤として、一人一人の生徒の居場所づくり、笑顔と信頼の絆づくりを推進する。
○道徳教育の充実：道徳科を要として、教育活動全体で効果的な指導を展開し、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う
○特別活動の充実：「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の視点を明確にして、生徒主体の皆がわくわくする学級活動、生徒会活動、学校行事の充実を図る。
○積極的生徒指導の推進：「愛の０運動」や「愛の１,２,３運動」の実践及び教育相談の充実、関係機関等との連携により、いじめや不登校問題、児童虐待、問題行動の未然防止を図る。

（２）「確かな学力」の育成

○学習指導の充実：「田浦中スタイル（統一事項）」の共通実践と「わくわく学習（「４つの仕掛けの視点」の質的向上による授業改善）」の推進により、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
○特別支援教育の充実：保護者の気づきアンケートと保護者面談をもとに、関係学校･機関との連携を図り、支援計画に基づく組織的支援を継続的に行う。
○朝自習の充実：読書、論語教育、全国学力・学習状況調査、県学力調査問題等の活用を工夫し、学習効果を高める。
○家庭学習の充実：家庭と連携して、手引を活用した家庭学習の指導と教職員による日々の見取り、学習ノートへのコメント記入による励ましを行い、家庭学習に取り組む意欲を高める。

（３）「たくましい身体」の育成

○健康教育の推進：家庭との連携の上で、生涯にわたって健康で安全な生活を送る基礎を培う実践的指導を充実させる。
○体力の向上：運動量を確保した体育の授業を充実させる。また、「運動部活動の指針」を踏まえた適正で魅力ある運動部活動、希望者による朝のランニング、生徒会による外遊びなど体力向上の機会を設ける。
○食育の推進：食育講話や「マイ弁当の日」の実施、給食の時間における食に関する指導を充実させる。

（４）地域とともにある学校づくりの推進

○学校情報の発信：校長室便り・学級便り・保健便りの発行、学校ＨＰ・ＳＮＳ・保護者連絡メール等による情報発信を随時行う。
○地域人材の積極的活用：授業におけるゲストティーチャー、運動場除草作業、３年生餅つきなど、地域学校協働活動の推進を図る。
○学校評価と指導の充実：生徒、保護者、教職員及び学校評価委員会による評価を教育活動へ反映させる。

（５）就学前教育の充実

○小・中の一層の連携：合同歓迎遠足、相互授業参観、小中連携会議（毎月）、夏季休業中の小学校学習会への協力、歌唱指導等を通して、小中９年間のスパンで生徒を育てる。

（６）環境教育の推進

○生徒主体の学校版環境ＩＳＯの取組を充実させる。
○生徒会、保護者、地域と連携して教育環境の整備や、四季折々の花いっぱいの学校づくりを行う。
○生徒のよさを認め、褒め、励まし、伸ばす、メッセージ性の高い校内掲示を工夫する。

４　「チーム田浦中」の実践について

※Ｎ（ネットワーク）、Ｆ（フットワーク）、Ｔ（チームワーク）で実現
（１）**知行合一**・・・知識と実践を一致させる
（２）**共通理解・協同実践**・・・同じ方向を向いて協同実践
（３）**率先垂範**・・・教師自ら時を守り、場を清め、礼を尽くす
（４）**継続は力なり**・・・最後まで諦めない粘り強い実践
（５）**職務には厳しく、職場は楽しく**・・・めりはりと人の和
（６）**１００－１＝０の法則**・・・生徒に保護者に地域の方に同僚に、家族に接するように丁寧で温かみのある対応を心がける。→**危機管理の「さしすせそ」**

田浦中スピリッツ：あきらめない　最後まであきらめない